

2. 2. 2 海岸環境に関する事項

(1) 海岸環境に関する現状、課題及び施策

①沿岸域における動植物の生息・生育環境の保全

□現状

- ・北見沿岸はすぐれた自然の風景地で、その保護及び利用の増進を図る必要がある地域として知床国立公園、網走国定公園、北オホーツク道立自然公園に指定されており、その中で多種多様な生物相など優れた生態系を有している。また国の天然記念物に指定されている女満別湿原植物群落をはじめ、原生花園や特定植物群落など多くの貴重な植生が分布している。
- ・北見沿岸にはオホーツク海の良好な漁場が多く存在している。特に砂浜地帯はホタテの一大生産地となっており、漁業生産の面から見ても、その生息・生育環境の保全は重要である。
- ・砂浜には、ハマナス・ハマボウフウなどの海浜植生が分布しており、砂浜に生息する昆虫類などにとって重要な生息環境となっているが、一部では海浜植生が減少している。
- ・北見沿岸は鳥類の宝庫であり天然記念物に指定されているオジロワシ、オオワシが生息している。特にハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖は「ラムサール条約」に登録されており、湿地に生息する動植物の保護及び自然環境の保全と適正利用の国際レベルの推進が求められている。
- ・北見沿岸には多くの藻場・干潟が存在しており、生物の生息・生育域として重要な役割を果たしている。しかし埋立等の直接改変などの理由により一部で減少がみられる。
- ・北海道に隣接するサハリン北東沖では、多国籍企業による石油・天然ガス開発プロジェクトが、地震の多発や流氷など厳しい気象条件の下に進められている。今後開発計画の進展に伴って、オホーツク海、宗谷海峡及び日本海において、タンカー等の航行に伴う事故や原油生産施設（掘削基地）の事故の際、本道への影響が危惧されている。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、10年前と比較して海岸の緑や砂浜が減少していると感じている人々が多く、海浜植物、原生花園等の環境への配慮が望まれている。また、北見沿岸の豊かな風景、動植物を後世へ残したいと考えている。
- ・油流出事故の際の海、海岸への影響を懸念する意見や油流出事故への対策を望む意見がある。
- ・北見沿岸縦覧意見では、自然と共生する海岸、動植物の生態調査の実施や保全対策が望まれている。

□課題

- ・沿岸域の優れた生態系は漁業や観光、レクリエーション面にとっても貴重な財産であり、21世紀以降に守り育てていくことの重要性は極めて高い。そのため海域、陸域を含めた沿岸域に生息・生育する動植物及びそれらの生息・生育環境の保全が必要である。
- ・生物の重要な生息域である藻場や干潟は水質汚濁等の海洋汚染や人為的行為による影響を受けやすく、その保全が必要である。
- ・サハリン北東沖における石油・天然ガス開発プロジェクトに係わる油流出事故が発生した場合、魚介類をはじめとして、微生物、底生生物、プランクトン、鳥やこれらの生物の重要な生息域である藻場や干潟に多大な悪影響を及ぼすことが予想されるため、その対策が必要である。

□施策

- ・優れた自然環境は、生活はもとより、漁業や観光、レクリエーションなどの産業にとってもかけがえのない貴重な資源であり、人々に憩いと安らぎを供与する存在として重要であることから、現存する藻場、特定植物群落及び海浜植物、貴重な鳥類の生息する自然環境などに十分配慮する。
- ・地域や関係機関と連携して油流出事故に迅速に対応する。

②海岸景観の保全

□現状

- ・北見沿岸はすぐれた自然の風景地で、その保護及び利用の増進を図る必要がある地域として知床国立公園、網走国定公園、北オホーツク道立自然公園に指定されている。
- ・北見沿岸は知床岬・岩尾別等の海食崖、サロマ湖・網走湖等の湖沼景観、小清水海岸・ベニヤ海岸等の原生花園、流水・ハクチョウ等の冬季特殊景観、ウスタイベ・神威岬等の海岸景観などオホーツク海沿岸の雄大な景観をなしている。しかし近年、構造物の増加などにより景観の悪化が懸念されている。
- ・北見沿岸は紋別市から小清水町を中心に砂浜が多く存在するが、海岸侵食により砂浜が減少している。
- ・北見沿岸では流木や沿岸に漂着するゴミにより景観が悪化している。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、住民は砂浜、原生花園、自然等の風景を後世に残したいと感じている。また、住民が抱く北見沿岸の海岸のイメージは砂浜、岩場といった自然の海岸風景であり、景観の保全が望まれている。

□課題

- ・知床半島の海食崖、サロマ湖・網走湖等の湖沼景観、小清水海岸・ベニヤ海岸等の原生花園、流水・ハクチョウ等の冬季特殊景観など美しい海岸景観は、精神的に安らぎを与えるだけではなく、観光資源として地域の活性化にも重要な役割を果たしている。そのため、美しい海岸景観の保全が必要である。
- ・砂浜は景観上にも優れ、また波浪を軽減し、陸域への波の進入を防ぐという防護面でも重要である。そのため砂浜の維持を図る必要がある。
- ・海岸景観に悪影響を及ぼす流木や海岸に漂着するゴミなどの対策が必要である。

□施策

- ・沿岸域における構造物の設置については、周囲に威圧感や閉鎖感などを与えないよう、色彩・素材・緑化などの工夫により修景し、自然景観への影響を極力抑えるように努めるなど、優れた海岸景観を損なわれることのないように、整備を行う際に十分配慮する。
- ・景観上にも優れ利用、防護面でも重要な砂浜の維持に配慮する。
- ・流木など漂着ゴミ対策を検討する。

(3)海岸共生意識の啓発・活動の支援

□現状

- ・北見沿岸は雄大で神秘的な自然豊かな景勝地が存在し、多種多様な生物相など優れた生態系を有している。しかし、近年の海岸利用者の増加とともに、砂浜、岩場でのゴミの増加がみられ、景観の悪化が問題となっている。
- ・北見沿岸における COD 値は年々高くなっています、水質悪化による藻場、干潟への影響が懸念されている。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、半数近くの人々が 10 年前と比較して、海面のゴミや油、砂浜・岩場のゴミが多くなったと感じている。海岸利用の際の不満では、ゴミの散乱による不満が最も多い。

□課題

- ・ゴミ問題は地域と一体となった日常的な海岸管理が求められており、これらの海岸景観、生態系を保全する海岸共生意識の啓発・活動の支援が必要である。
- ・水質汚濁等の海洋汚染は魚介類や鳥類等の生物の重要な生息域である藻場や干潟に悪影響を及ぼす。そのため地域住民が自発的に海洋環境に关心を持ち、生活の中で海と人との関係を考えていくことができる環境づくりが必要である。

□施策

- ・地域と連携してゴミ対策、海岸愛護活動、環境教育活動の支援を進めながら、地域住民及び利用者の海岸共生意識の向上を図る。

④歴史・文化の保存継承の支援

□現状

- ・北見沿岸は擦文文化やオホーツク文化など、様々な時代の遺跡を数多く有している。国指定の史跡としては網走市の桂ヶ丘砦跡、最寄貝塚、常呂町の常呂遺跡がある。これらの様々な文化財は北見沿岸のみならず北海道全体の財産として貴重である。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、最寄貝塚、オムサロ遺跡等の沿岸域に分布する歴史的建造物・文化財の保全が望まれている。

□課題

- ・これら文化財の保全は未だ十分とはいえない。沿岸域に暮らす人々にとって海は日常生活における重要な空間であり、受け継がれてきた貴重な財産の保全が望まれている。そのため海岸が育んできた歴史、風土、地域文化を良好な状態で後世へ保存・継承する必要がある。

□施策

- ・地域住民にとって北見沿岸の歴史的風土の継承は、生活環境はもとより、観光資源としても重要である。こうした豊かな文化の保全は困難となることが多く、そのため、受け継がれてきた貴重な財産の保全、歴史・文化の保存継承について啓発活動を支援する。

2. 2. 3 海岸利用に関する事項

(2) 海岸利用に関する現状、課題及び施策

①多様化する利用の調整

□現状

- ・北見沿岸は漁業生産の場、生活の場、産業の場、レクリエーションの場、交通・運輸の場など多様な利用が行われている。沿岸域は古くから漁業の盛んな地域であり、多くの漁港が整備されている。また海面はホタテ貝の一大生産地として活用されている。重要港湾に関しては紋別港、網走港が整備されており、主要な流通拠点として地域経済における中心的役割を果たしている。また、観光客も多く訪れており海水浴、釣り、ダイビング、シーカヤックなどの海洋性レクリエーションも行われている。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、釣り客等の海岸利用者へのマナーの向上を望む声が多い。また、漁業の場としての海岸だけでなく、一般市民も磯遊び等が出来る海岸が望まれている。

□課題

- ・様々な目的で海岸利用が活発になると、多様な人々が海岸を利用するようになり、その利用を巡るトラブルの発生が予想される。そのため、今後より利用が多様化してくる沿岸域において、地域住民も一体となった各種活動間での適正利用に関する調整、利用者のモラル向上が必要である。

□施策

- ・今後、より利用が多様化してくる沿岸域において、地域住民も一体となった海岸利用に関するルール作り、利用者に対するマナー啓発活動などを支援する。

②海岸利用サービスの充実

□現状

- ・沿岸域に暮らす人々にとって海岸は身近な存在であり、日常生活における「自然散策、散歩、ジョギング」の場としての利用がなされている。また、沿岸には多くの観光客や釣りなどの海洋性レクリエーションを楽しむ人々が訪れている。しかし、それら利用者へのサービス機能はいまだ十分とはいえない。
- ・北見沿岸は、知床国立公園、網走国定公園、北オホーツク道立自然公園など多彩な自然と恵まれた資源を活かし多くの観光客を集めている。また現在各市町村では地域活性化に向けた「インターナショナル・オホーツクサイクリング」や「サロマ湖 100km ウルトラマラソン」などの広域イベントや祭などに取り組んでいるが、1年を通じて安定した集客を図るための展開が求められている。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、海岸利用の際の不満はゴミの散乱について、トイレ・シャワー、駐車場、公園・緑地等の利便施設についての不満が多く、今後はこれらの施設の量・質の向上が望まれている。

□課題

- ・誰もが気軽に海岸に触れられるよう汀線・前浜へのパブリックアクセスを確保・改善することが必要であり、さらに観光、レクリエーション利用が盛んな海岸を中心に利便施設の不足解消、質の向上を図ることが必要である。
- ・今後ますます進んでいく高齢化社会に対応して高齢者はもちろん障害者にも配慮したバリアフリー化など、誰もが利用しやすく海岸で憩うことができるふれあいの場としての海岸づくりが必要である。
- ・地域の大きな特徴である流氷を活かした冬期観光、また豊かな自然を生かしたマリンツーリズムや体験・学習活動、カヌーやサケ釣り体験などの体験滞在型観光を促進するため地域が一体となった取り組みを進めていく必要がある。

□施策

- ・地域と連携して高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく海岸で憩うことができる環境づくりを行い、利便性、快適性の向上を図る。
- ・流氷を活かした冬期観光、各市町村のイベント、マリンツーリズム、漁業体験・学習活動またカヌーやサケ釣り体験などの積極的な支援、地域住民によるボランティア活動支援などを行う。

3. 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

地域の特性に応じ、バランスのとれた計画を策定し海岸の保全を進めていくために、ゾーン区分を行い、各ゾーンにおける方向性を示す。



図-3.1 ゾーン区分及びゾーンのテーマ

A 北オホーツクゾーン

【ゾーンのテーマ】

豊かな自然環境・生態系の保全

防護面の特性 : 海岸侵食が生じている。

環境面の特性 : 北オホーツク道立自然公園に指定されている。エサヌカ原生花園等の原生花園があり貴重な動植物の生息・生育環境になっている。

利用面の特性 : 釣り利用が行われている。釣り人による車の乗り入れやゴミの散乱が生じている。



自然海浜（猿払村）



ベニヤ原生花園



さるふつ公園



クッチャロ湖



サケ釣り

【ゾーンの方向性】

防護面 : 美しい景観、優れた自然環境に十分配慮し、より高質で安全な海岸整備を行う。

環境面 : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。

利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

B 枝幸・雄武・興部ゾーン

【ゾーンのテーマ】

波浪に対する安全性の確保

防護面の特性 : 波浪による越波被害や一部では海岸侵食が生じている。

環境面の特性 : 藻場, 干潟が分布している。

岩礁と砂浜が交互に続く景観が特色である。漂着流木による自然環境への影響が懸念されている。

利用面の特性 : 海水浴, 釣り利用が行われている。釣り人による車の乗り入れや地域住民とのトラブルが生じている。

岩礁域では防氷堤が整備され、流氷による水産資源の被害を防いでいる。



越波状況



日の出岬



神威岬



流木の漂着（枝幸町）



ウスタイベ千畳岩



沙留海水浴場



沙留海岸の防水堤（興部町）

【ゾーンの方向性】

防護面 : 施設の新設及び既存施設の効果維持を図る。

環境面 : 現存する藻場・干潟, 海浜植生等の動植物の生息・生育環境に配慮する。

利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るために活動を支援する。

C 紋別・能取ゾーン

【ゾーンのテーマ】

砂浜の保全

- 防護面の特性** : 土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。
- 環境面の特性** : 網走国定公園に指定され多くの原生花園がある。特にサロマ湖、能取湖、シブノツナイ湖、コムケ湖等の多くの海跡湖がある地域である。
なだらかな砂浜の景観が続く。
- 利用面の特性** : 海水浴場が2箇所開設されている。特に常呂常南ビーチは沿岸最大の入込数を誇っている。釣り人が多く車の乗り入れが生じている。



侵食状況



ゴミの散乱



オホーツクホワイトビーチ



常南ビーチ（常呂町）



ワッカ原生花園

【ゾーンの方向性】

- 防護面** : 緊急性を要する地域については、早急に海岸保全施設の整備を行う。
広域的な海岸侵食に関する調査研究により土砂収支の定量的な把握及び侵食原因を解明する。
- 環境面** : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。
- 利用面** : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

D 小清水ゾーン

【ゾーンのテーマ】

砂浜や海浜植生等の豊かな自然環境の保全

- 防護面の特性** : 土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている.
- 環境面の特性** : 網走国定公園に指定され、北海道の名勝に指定されている小清水海岸がある。特定植物群落に指定されている小清水原生花園、以久科原生花園などがある。
- 利用面の特性** : 釣り、観光を目的として多くの人々が訪れている。釣り人によるゴミの散乱や車の乗り入れ等の問題が生じている。



侵食状況



小清水海岸



流水観光船



能取岬



峰浜海岸



斜里海岸草原群落

【ゾーンの方向性】

- 防護面** : 緊急性を要する地域については、早急に海岸保全施設の整備を行う。広域的な海岸侵食に関する調査研究により土砂収支の定量的な把握及び侵食原因を解明する。
- 環境面** : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。
- 利用面** : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

E 知床半島ゾーン

【ゾーンのテーマ】

優れた自然環境の維持

防護面の特性 : 特に問題は生じていない。

環境面の特性 : 知床国立公園に指定され、自然のままの海岸景観が残されている。また、貴重な動植物の生息・生育環境となっている。

利用面の特性 : 北部は前人未踏の地であり、一部でシーカヤック、ダイビング、漁業利用が行われているほかはほとんど利用されていない。南部は道路利用が主である。



知床岬



オロンコ岩



ブニ岬



オオワシ



道路利用

【ゾーンの方向性】

防護面 : 現況の施設の効果維持を図り、基本的に新規整備は行わない。

環境面 : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。

利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。